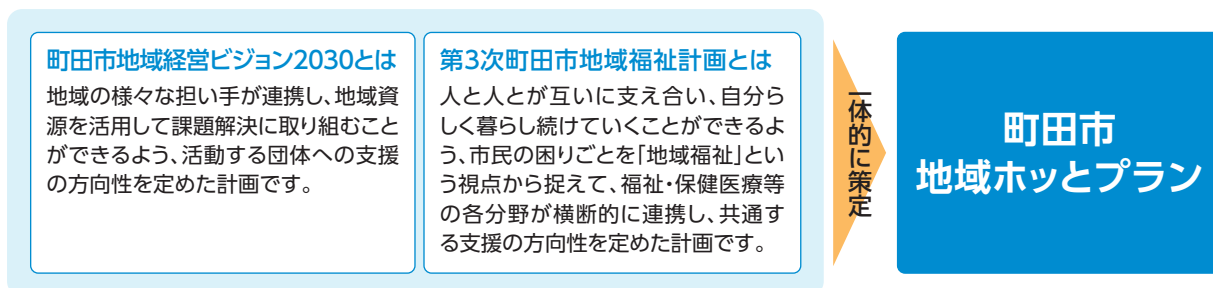


計画の策定にあたって

計画の背景と目的

- 近年の人口構造や社会の変化を受けて、私たちのライフスタイル・価値観は大きく変化し、地域における助け合いの仕組みに影響を与えるだけでなく、8050問題やダブルケア等の新たな課題を浮き彫りにしました。このような課題に対応するため、人と人とがつながり、多様な価値を尊重し合うことで、誰もが自分の役割や活躍の機会を得られる共生社会の実現を目指します。
- 本プランは、本市の協働による地域社会づくりを推進するために策定した「町田市地域経営ビジョン2030」と、社会福祉法第107条に基づき、地域福祉の推進に関する事項を定めた「第3次町田市地域福祉計画」の各後継計画を一体的に策定するものです。
- また、本プランは町田市基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン2040」を上位計画とするとともに、本市の高齢者、障がい者、子ども、保健・医療等の各分野の個別計画の上位に位置づけ、共通する事項を定めます。更に、その他の計画とも施策の連携を図りながら、協働による地域社会づくりと地域福祉を一体的に推進します。
- 一方、町田市社会福祉協議会では「地域福祉活動計画」を策定しています。これは、市民や地域団体等と連携して定める、地域における活動・行動計画であり、地域福祉の推進という点で、目的を本プランと同じくしているため、本プランと地域福祉活動計画は相互に連携・協働していきます。

【計画の統合】



【計画の位置付け】



計画の期間

本プランの計画期間は、「まちだ未来づくりビジョン2040」の「まちづくり基本目標」と合わせ、2022年度から2031年度までの10年間とします。

計画名称(根拠法)	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
基本構想・基本計画		町田市基本計画 「まちだ未来づくりプラン」 2012-2021				町田市基本構想・基本計画 「まちだ未来づくりビジョン2040」(2022-2039:18年間) まちづくり基本目標(2022-2031年度:10年間)									
地域福祉計画 (社会福祉法)		第3次(2016-2021)				町田市地域ホッとプラン (2022-2031)									
地域経営ビジョン		現計画(2017-2021)													

※「まちだ未来づくりビジョン2040」は、基本構想相当部分と基本計画相当部分が分かれており、基本計画相当部分を担う「まちづくり基本目標」の計画期間は、前半期を2022年度から2031年度までの10年間としています。

計画の構成

本プランでは第1部に、市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会、及び市が協働し、市全体で取り組む事項を掲げた「みんなの計画」を策定しています。また第2部では、地域が主体的に取り組む事項等を、地域が作成し、市と社会福祉協議会が支援を行う地区別の「わたしの地区の未来ビジョン」を策定します。それぞれを連動させながら推進することで、基本理念の実現を目指します。

地域でささえあい 誰もが自分らしく暮らせるまちだ

【 基本理念の実現 】



現状と課題

本プランの策定にあたり、「地域経営ビジョン2030」と「第3次地域福祉計画」を振り返るとともに、統計データをはじめ、各種調査やタウンミーティング、地区別懇談会の結果から5つの課題を整理しました。

地域経営ビジョン2030・第3次地域福祉計画の振り返り

【「地域経営ビジョン2030」の振り返り】

ア 地域団体への支援体制の創設

- 町田市地域活動サポートオフィスを設立し、地域活動団体への支援体制を整備

イ 地区協議会の活動支援の充実

- 市内全10地区に地区協議会の設立支援
- 「地区協議会活動報告会」を開催し、地区協議会の横のつながりを確保

ウ 行政部署間の連携の促進

- 毎年、地区協議会の方を講師に招き、協働についての市職員研修を実施
- 地域との協働事業や庁内連携を行う各課の担当者による情報交換会を開催

「自分ゴト」として
地域活動に
参加する人を
増やす

【課

【「第3次地域福祉計画」の振り返り】

ア 地域福祉活動の活性化

- 地域の福祉課題の把握や解決に向けて取り組むための多様な主体の連携体制づくりを目的に、市内10地区で地区別懇談会を実施

イ 相談支援の充実

- 地域に身近な相談窓口における相談受任件数が増加

各相談窓口での相談受任件数	2015年度	2020年度
高齢者支援センター	59,214件	84,063件
障がい者支援センター	8,786件	11,288件
地域子育て支援センター	7,167件	12,252件

ウ 災害時に備えた避難体制の構築

- 発災時の避難等に備える自助・共助の取組を後押しするとともに、避難行動要支援者名簿を作成し、平常時から関係機関等と共有

時代の変化に
対応した
新しい
つながりづくり

必要な人に
必要なサービスを
つなげるための
体制づくり



タウンミーティング・地区別懇談会の結果

【タウンミーティングの結果】

- 基本構想・基本計画策定にあたり、「2040年になりたいまちの姿」について話し合うタウンミーティングを実施
- 主な意見では、「つながり」、「多世代交流」、「安心」、「居場所」の充実したまちの姿が求められている

【地区別懇談会の結果】

● 参加者数の推移

※2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止し、アンケートを実施

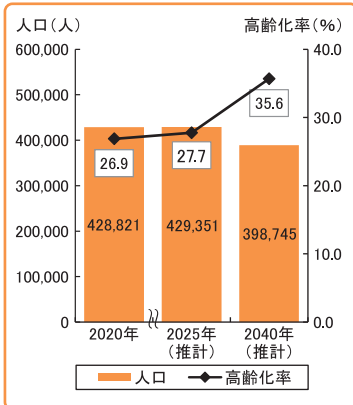
	2017年	2018年	2019年
市内10地区合計	375人	362人	382人

● 地区別懇談会を通じて生まれた活動等

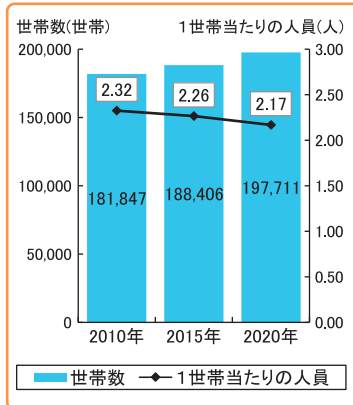
- 地域住民同士の支え合いの活動(玉川学園・南大谷地区「みいちゃんサービス」)
- 地区社会福祉協議会の設立(鶴川地区、相原地区)

統計データから見た本市を取り巻く現状

【人口・高齢化率】



【世帯数・世帯人員】



【要介護認定者数、障がい者数・生活保護世帯数】

● 要支援・要介護認定者数	2015年度末 18,932人	➔	2020年度末 22,307人
● 障害者手帳所持者数	2015年度末 18,253人	➔	2020年度末 20,240人
● 被保護世帯数	2015年度末 5,291世帯	➔	2020年度末 5,794世帯

【地域活動団体等の状況】

● 町内会・自治会加入世帯数	2015年度末 104,417世帯	➔	2020年度末 99,886世帯
● ボランティア団体登録人数	2015年度末 5,979人	➔	2020年度末 4,604人

※ボランティアセンター登録団体の登録人数

多様な主体
による地域課題
解決のための
プラットフォーム
づくり

災害時における
命を守る
地域づくり

各種調査の結果

【市民アンケート調査】

- 自分が困ったときに地域に頼みたい事がある人の割合、地域のためにできることがある人の割合ともに8割台と高い。その内容として、「日常での安否確認の声かけ」や「災害時避難の手助け」と回答した人はいずれも6割超。
- 住民同士の自主的な協力関係を必要と感じているのは過半数。
- 地域活動やボランティアに参加しているのは4人に1人程度。
- 地域活動やボランティアの情報は半数以上、福祉サービス・制度の情報は4割弱の人がほとんど入手できていないと回答。
- 生活上の困りごとを抱えている人は約6割おり、そのうち複数の困りごとを抱えている人は過半数。

【市内NPO法人・市民活動団体実態調査】

- 広報活動は、チラシ、ホームページが多く、SNS利用は少ない。
- 活動する上で必要と感じている支援は、「ファンドレイジング」、「広報・情報発信」の順に多い。

【団体アンケート調査(相談機関)】

- 支援が必要にも関わらず福祉サービスの利用に結びついていない人として、「専門機関への相談の必要性を自覚していない人」、「家族も何かしらの課題を抱えている人」、「人との関わりを避けて、地域から孤立している人」、「複数の課題を抱えて、どこに相談したらよいかわからない人」などの回答があった。

【地区協議会へのヒアリング】

- 地区協議会の活動の実績をみると、常に同じ人、同じ団体が活動を行っている。
- 地域に関心を持つ人が少なくなっている中、地域への地区協議会に関する情報の周知も不足しており、活動への協力者や事業への参加者が少ない。



2018年度 町田第二地区

【基本理念】

【基本目標】

地域でささえあい 誰もが自分らしく暮らせるまちだ

基本目標Ⅰ 今を生きる自分に合ったつながりをつくる

ホッとできる
つながりを
作ります

多様なライフスタイル・価値観が存在する現代においては、人と人との関わり方、つながり方についての考えも人それぞれです。近隣の協力関係等、地域でのつながりについて必要と感じている方は多いものの、「自分ごと」としての地域活動への参加率は低くなっています。時とともに変化するつながりの中で、多様化する市民の価値観に合った地域活動への参加のきっかけづくりを行います。

基本目標Ⅱ つながりで地域の活力を生み出す

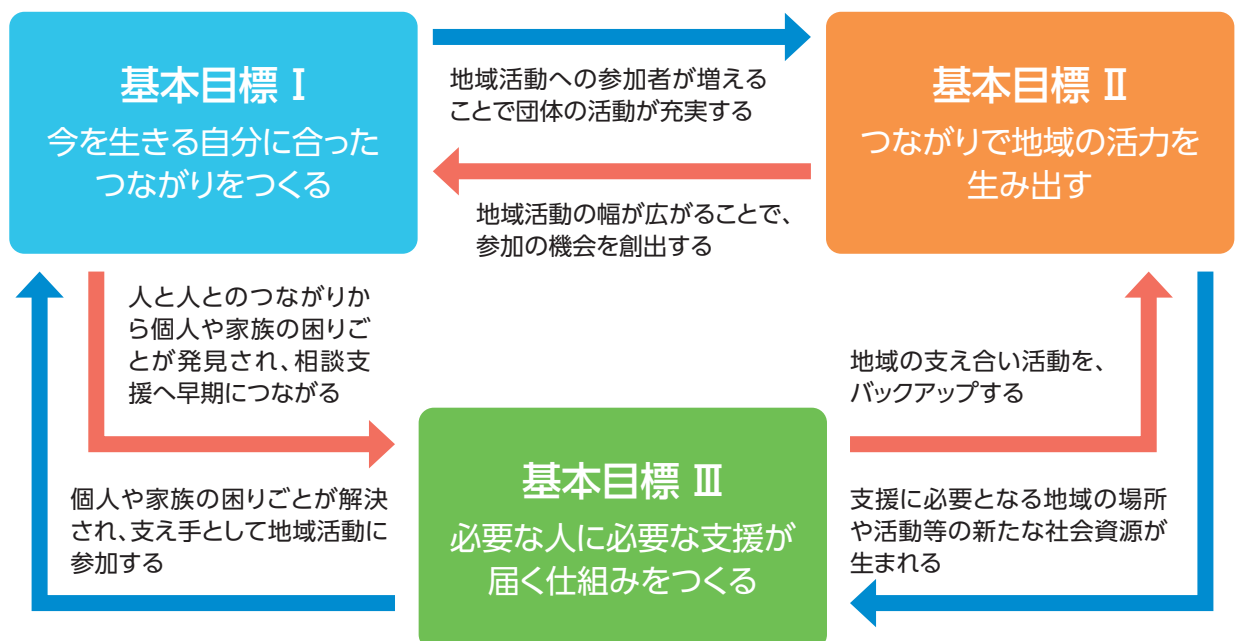
つながりが
ホッとな力を
発揮します

行政や地域で活動する団体が単独では解決できない課題に対応するためには、地域・企業・行政等の様々な主体が連携し、共通のビジョンを持って取り組むことが必要です。様々な主体が強みや特性を相互に理解したうえで、新たな解決手法を生み出せるよう、連携体制の構築や持続可能な地域づくりを進めます。

基本目標Ⅲ 必要な人に必要な支援が届く仕組みをつくる

困っている人を
ホッとくまません

「8050問題」や「ダブルケア」等、個人や家族が抱える課題が複雑化・複合化している中で、必要な支援につながることでできない人に対する取組が求められています。困りごとを抱える人を必要な支援につなげられるよう、行政の各分野が横断的に連携し、相談支援機能の強化を図ります。また、地域とともに、困りごとを抱える人を早期に発見し、必要な支援を行います。



【基本施策】

【取組施策】

1 地域への意識・関心が高まる

- (1) 地域活動に関する情報発信
- (2) コミュニケーションが生まれるきっかけづくり

2 「やりたいこと」と地域ニーズをマッチングする

- (1) 「やりたいこと」と地域ニーズのマッチング
- (2) 地域活動の継続と新たな活動の創出に向けた支援

1 多様な主体のつながりが活性化する

- (1) 持続可能なプラットフォームの構築
- (2) 多様な主体がつながるネットワークの充実

2 地域でイノベーションを起こす

- (1) 新たなプラットフォームから生まれた取組の推進
- (2) 地域課題の解決や魅力向上に向けた取組の推進

1 支援の輪につながる、つなげる

- (1) 当事者や家族等の気づきと周囲の人の理解の促進
- (2) 地域における見守り・支え合い活動の充実
- (3) 当事者や家族等が相談しやすい体制づくり

2 支援が必要な人に寄り添い、支える

- (1) 社会とのつながりに向けた支援
- (2) 生活困窮者等への支援
- (3) 住宅確保要配慮者への支援
- (4) 自殺対策の推進
- (5) 暴力・虐待の防止
- (6) 権利擁護の推進(成年後見制度利用促進基本計画)
- (7) 再犯防止に向けた取組の推進(再犯防止推進計画)
- (8) 災害時に備えた支援体制の構築
- (9) ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

3 支援の質を確保する

- (1) 福祉サービスの質の向上
- (2) 福祉専門人材の育成・確保
- (3) 地域福祉の包括的支援機能の構築

リーディングプロジェクト

1 地域の「やりたい」をかなえつづけるプロジェクト

2 困りごとをなくそうプロジェクト

目標達成に向けた施策

基本目標Ⅰ 今を生きる自分に合ったつながりをつくる

基本施策1 地域への意識・関心が高まる

【施策の方向性】

隣近所の間関係が疎遠になり、町内会・自治会をはじめとした地域活動に参加する人が減少しています。また、地域活動の担い手が高齢化、固定化しており、若い世代を中心とした新たな担い手が必要となっています。

そこで、地域への関心が高まるように、地域活動に関する効果的なプロモーションを実施していきます。同じ関心事を持った人が集まると会話が生まれるように、デジタル空間を含めた様々な場を活用し、コミュニケーションが生まれるきっかけをつくっていきます。

指標

- ▶ 地域活動への関心度
- ▶ 地域における人とのつながりが生んだ満足感

取組

- ▶ 地域活動に関する情報発信
 - 多様な価値観、関心度に応じた地域活動に関する効果的な広報・プロモーション
 - 地域情報発信の支援
- ▶ コミュニケーションが生まれるきっかけづくり
 - デジタルの場の活用
 - 地域活動の場の活用



基本施策2 「やりたいこと」と地域ニーズをマッチングする

【施策の方向性】

市では、地域活動団体の活動支援や地域の団体と団体をつなぐ支援を行っていますが、地域活動のネットワークが十分に広がっている状況ではありません。一方、市民アンケート調査では、地域のためにできることがある人は高い割合でいることが分かりました。

そのため、「やりたいこと」「できること」と地域ニーズを組み合わせるマッチング機会の創出と、地域で活動する機会の充実を図ります。地域活動がより活性化するよう支援を継続していくとともに、個人や企業、活動団体の持つ経験や能力と、地域のニーズをマッチングすることで、新規の活動の創出にもつなげていきます。

指標

- ▶ 地域活動に参加したことがある市民の割合
- ▶ マッチング件数

取組

- ▶ 「やりたいこと」と地域ニーズのマッチング
 - マッチングの促進
 - 地域で活動する機会の充実
- ▶ 地域活動の継続と新たな活動の創出に向けた支援
 - 地域活動の活性化に向けた支援



基本目標Ⅱ つながりで地域の活力を生み出す

基本施策1 多様な主体のつながりが活性化する

【施策の方向性】

これまで10地区で地区協議会を設立し、地域の課題解決に取り組んできましたが、活動内容や活動に携わる人々が固定化しつつあり、一部の人の負担が大きくなっています。

そのため、地域・企業・行政が参加し、地域課題解決に向けた取組を検討するため、「寄り合い -The YORIAI-」を開催します。検討の中で、一緒に取り組む人を増やしていく、活動の担い手を増やしていく仕組みを築きます。

指標

- ▶ 課題解決に向けた話し合いの場の参加しやすさ
- ▶ 地区協議会・地区別懇談会・「寄り合い -The YORIAI-」から生まれた課題解決プロジェクトの参加人数

取組

- ▶ 持続可能なプラットフォームの構築
 - 地域・企業・行政による課題解決の仕組みの構築
- ▶ 多様な主体がつながるネットワークの充実
 - 地区協議会等の運営支援
 - 地区別の懇談機会の充実



基本施策2 地域でイノベーションを起こす

【施策の方向性】

地域資源の組み合わせ、コーディネートといった従来の手法だけでは、地域課題の解決が難しくなっています。これまでも地区別懇談会で地域課題について話し合われてきましたが、解決策の実施には至っていません。未来思考で議論し、新しいアイデアや手法を用いて検討していくことが重要です。

今後は、従来の枠組み、手法にとらわれず、地域課題を自分ごととして共感した人が話し合い、行動につなげる場を通して生まれた課題解決プロジェクトの推進を支援します。また、地域のなりたいビジョンの実現を支援します。

指標

- ▶ 地域に活気があると感じる市民の割合
- ▶ 地区協議会・地区別懇談会・「寄り合い -The YORIAI-」から生まれた課題解決プロジェクトの実施件数

取組

- ▶ 新たなプラットフォームから生まれた取組の推進
 - 地域・企業・行政による課題解決プロジェクトの推進
- ▶ 地域課題の解決や魅力向上に向けた取組の推進
 - 地区協議会等の活動支援の充実
 - 「わたしの地区の未来ビジョン」実現の支援



目標達成に向けた施策

基本目標Ⅲ 必要な人に必要な支援が届く仕組みをつくる

基本施策1 支援の輪につながる、つなげる

【施策の方向性】

8050問題やダブルケア等の複合化した制度の狭間の問題を抱え、社会的に孤立している個人や家族が見られます。このような方々に対し、これまで市では、高齢者・障がい者・子ども・保健等の各分野がその属性の範囲内で対応してきましたが、十分な支援につなげられていない事例が見られます。

そのため、行政の各分野がこれまで培ってきた専門性を活かしつつ横断的に連携し、相談支援機能の強化を図るとともに、アウトリーチの取組の強化を図ります。また、福祉課題の周知や、福祉サービスに関する情報提供、地域での見守り活動を行うことで、当事者や家族を含めた地域の人への気づきや理解を促進します。これらにより、当事者が自ら必要な支援につながるとともに、周囲の人が必要な支援につなげられるような体制を構築します。

指標

- ▶ 福祉サービスに関する情報を入手しやすいと感じる市民の割合
- ▶ 困ったときに助けてもらえる人や相談支援機関があると感じる市民の割合
- ▶ 地域福祉コーディネーターが地域のつながりから相談支援に結び付けた件数

取組

- ▶ 当事者や家族等の気づきと周囲の人の理解の促進
 - 福祉課題の理解の促進
 - 福祉サービスに関する情報提供
- ▶ 地域における見守り・支え合い活動の充実
 - 多様な人材の地域福祉活動への参加促進
 - 地域における見守り・支え合い活動の推進
- ▶ 当事者や家族等が相談しやすい体制づくり
 - 身近な場所での相談体制の充実
 - 地域のつながりを通じた潜在的な相談者の把握
 - 多機関の協働による相談支援体制の構築



基本施策2 支援が必要な人に寄り添い、支える

【施策の方向性】

複合化した問題や制度の狭間の問題を抱える方が相談支援機関につながったにも関わらず、これらの問題に対応した十分なサービスが整っていないため、根本的な問題の解決には至っていない事例が見られます。

そのため、社会情勢や市民ニーズの変化等に迅速かつ的確に対応し、一人ひとりの状況に応じた適切な支援を提供できるよう、既存の福祉サービスの内容の充実や新たなサービスの創出を図ります。また、8050問題やダブルケア、ひきこもりをはじめとする問題や、災害発生時における避難体制の構築等、行政だけでは十分に対応しきれない課題については、地域活動団体や福祉サービス事業者等の多様な主体と連携した支援体制の構築を図ります。

指標

- ▶ 自分や周りの人が必要とする支援を受けられていると感じる市民の割合
- ▶ 災害時の地域における協力体制があると感じる市民の割合



基本施策3 支援の質を確保する

【施策の方向性】

支援を必要とする人が安心してサービスを利用できるよう、福祉サービス事業者等に対する第三者評価制度の利用を促進するとともに、福祉に携わる人材の確保や、事業者向けの研修等を行うことで、福祉サービスの質の向上を図ります。

また、各分野を跨ぐ問題に対応するため、高齢者支援センター・障がい者支援センター・地域子育て相談センター・教育センターをはじめとする、地域における相談支援機関からの情報をもとにした、施策の検討体制の構築を図ります。

指標

- ▶ 福祉サービスの質に対する満足度
- ▶ 地域貢献活動を実施している福祉サービス事業所の割合

取組

- ▶ 福祉サービスの質の向上
 - 福祉サービス第三者評価の受審促進
 - 福祉サービス事業者等への適正な運営支援
 - 福祉サービス事業者等が行う地域貢献活動の促進
 - 苦情相談窓口の運営
 - 分野横断的な福祉サービス等の展開
- ▶ 福祉専門人材の育成・確保
 - 福祉人材の開発
 - 福祉サービス事業者向けの研修の充実
- ▶ 地域福祉の包括的支援機能の構築
 - 庁内における包括的支援体制の充実
 - 地域における相談支援機関の連携・協働の推進



取組

- ▶ 社会とのつながりに向けた支援
 - ひきこもりの状態にある方への支援
 - 就労に向けた支援
 - 地域の多様な主体と連携した参加支援
- ▶ 生活困窮者等への支援
 - 生活困窮者への支援
 - 子ども・子育て家庭への支援
- ▶ 住宅確保要配慮者への支援
 - 住宅確保要配慮者への居住支援
- ▶ 自殺対策の推進
 - 自殺防止に向けた取組の推進
- ▶ 暴力・虐待の防止
 - DV防止の推進
 - 虐待防止の推進
- ▶ 権利擁護の推進(成年後見制度利用促進基本計画)
 - 権利擁護支援の充実
 - 市民後見人の育成
- ▶ 再犯防止に向けた取組の推進(再犯防止推進計画)
 - 再犯防止に向けた支援
- ▶ 災害時に備えた支援体制の構築
 - 防災、避難施設等の情報提供
 - 災害時に備えた避難体制・医療救護体制の整備
 - 災害ボランティアセンターの充実
- ▶ ユニバーサルデザインのまちづくりの推進
 - 施設等のバリアフリー、ユニバーサルデザインの整備



リーディングプロジェクト

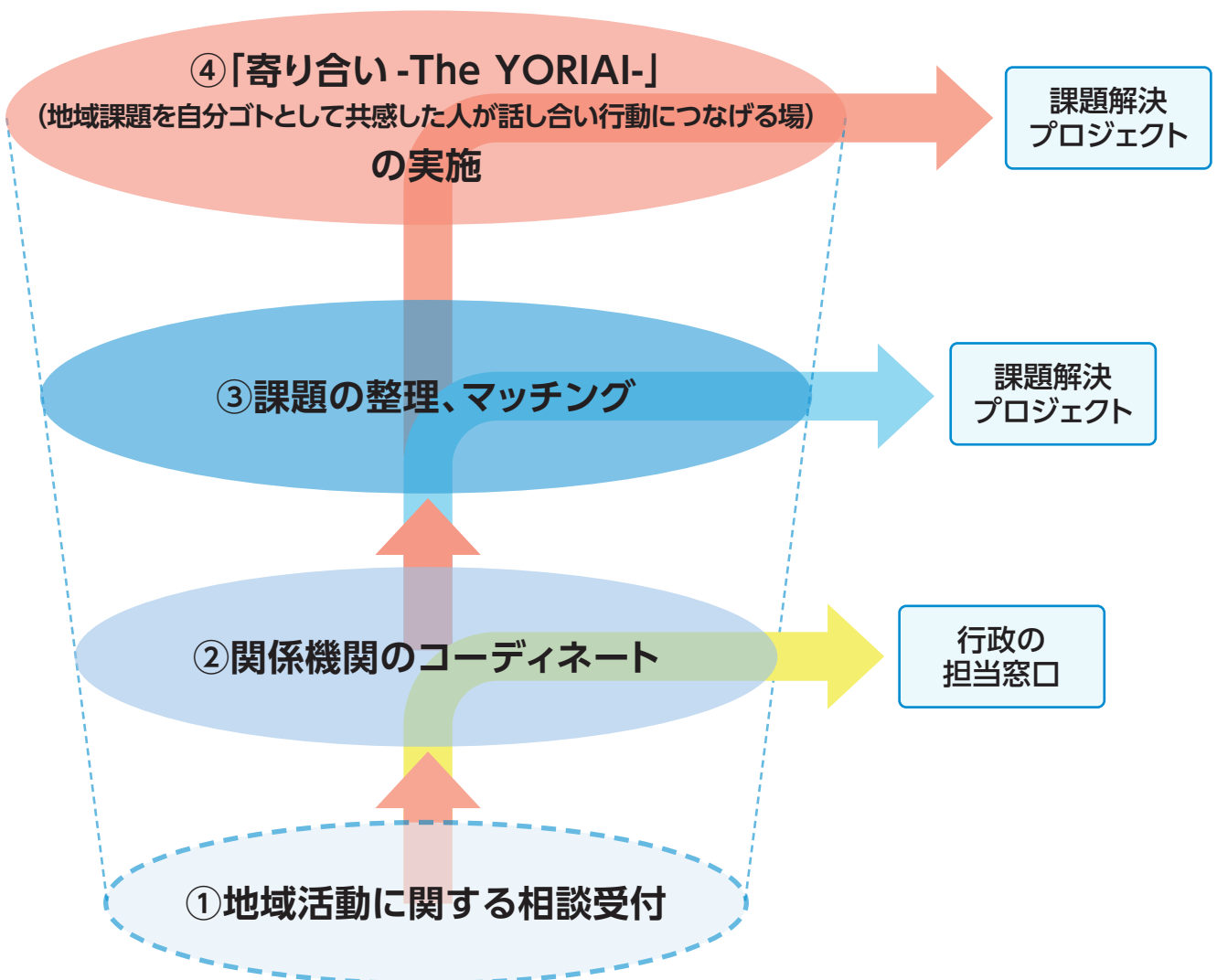
計画統合のねらいの一つでもある、地域コミュニティの希薄化と個人や家族の暮らしの困りごとを一体的に解決するため、本プランの先導的な役割を果たす取組を「リーディングプロジェクト」として設定しました。

1 地域の「やりたい」をかなえつづけるプロジェクト

少子高齢化の進行やテクノロジーの急速な進展によるコミュニケーション方法の変容、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした新しい生活様式への転換等により、市民のライフスタイルや価値観は多様化しています。市では、これまで地域「やりたい」「できる」をマッチングし、協働により地域課題の解決を行ってきましたが、地域活動に携わる人は十分に広がっていません。

そこで、今後より一層地域に関わる人のつながりを広げ、地域の「やりたい」をかなえ続けるために、「寄り合い -The YORIAI-」を実施します。まちの未来に関心を持つ様々な立場の人が、地域課題を自分ゴトとして共感し、一人ひとりに何ができるのかを考え行動し続けることで、地域づくりの輪を広げ、持続可能な地域づくりを目指します。

【プロジェクトイメージ】



2 困りごとをなくそうプロジェクト

高齢者、障がい者、子ども、保健・医療等の各分野では、これまで、それぞれの制度をベースとした専門性のもとに支援を行ってきました。しかし、複雑化・複合化した市民の困りごとに対して、迅速かつ効果的な支援を行うためには、地域における各分野の相談支援機関が培ってきた専門性を活かしつつ、これまで以上に連動し支援を行う必要があります。

本プロジェクトでは、各分野に関する相談を横断的に受け止めるとともに、各機関の連携を強化することに加え、市民、NPO法人等の地域活動団体、地域の事業者と連携しながら支援を行う等、包括的な相談支援体制の構築を目指します。

【プロジェクトイメージ】



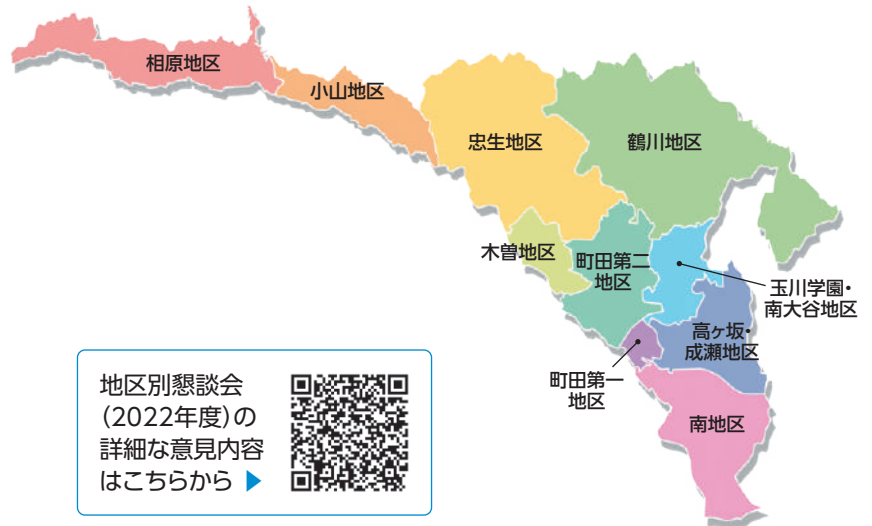
わたしの地区の未来ビジョン

わたしの地区の未来ビジョンの考え方

町田市は 東西に細長く北部の大半は丘陵地、南には平地が広がり、地域による環境の違いが大きいことが特徴です。それぞれの地域では、お住まいの方の年齢層、住宅事情、地理的な条件、活動している団体の数や種類等、一つとして同じ地域はなく、それにより地域の抱える課題やニーズは地域ごとに様々です。

そのことから、本プランの基本理念である「地域でささえあい 誰もが自分らしく暮らせるまちだ」を実現するためには、地域ごとに現状と課題を把握し、地域で様々な主体がそれぞれに合った形でつながり、そこで生み出された活力をもとに、地域課題の解決に取り組む必要があります。

そのため、2022年8月から12月に開催され、計617人(うちオンラインによる参加が43人)が参加した地区別懇談会でいただいたご意見をもとに、市民や地区協議会を中心とした地域活動団体が地区ミーティングで検討を重ね、10地区それぞれの「わたしの地区の未来ビジョン」を策定し、具体的な取組を掲げました。



わたしの地区の未来ビジョン

南地区

地区で活躍する地域団体の主な活動



地域の見守り事業「南地区福祉フェア」
子どもの見守り事業「一斉旗振り」
地域の活動支援「南あんしんプロジェクト」

地区別懇談会(2022年度)での
【ワクワクするまち・そのためにできること】

地区ミーティングで生まれた新たなプロジェクト

みなみひまわりプロジェクト

ひまわりいっぱい、つながるみなみ
明るい地域にしたい
多世代交流がしたい

Non-Age (ノン エージ)

大人から子どもへ、子どもから大人へ想いを伝える体験を通して交流することで、ワクワク明るい未来へつなげよう!

わたしの地区の未来ビジョン

高ヶ坂・成瀬地区

地区で活躍する地域団体の主な活動



地域交流事業「ポッチャ部活動」
地域交流事業「高ヶ坂・成瀬フェスタ」
地域活性化事業「みんなの食堂」

地区別懇談会(2022年度)での
【ワクワクするまち・そのためにできること】

地区ミーティングで生まれた新たなプロジェクト

TAKANARU project

多世代が楽しく集まれるまち
地域の居場所をいろいろな
場所につくっていききたい

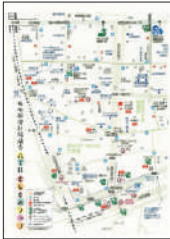
つながるこがなる広場

我が地域の魅力は、笑顔でつながる多世代交流
集まればつながり輪ができる
楽しいことを見つけられる
子どもも大人もみんなワクワク市場

● わたしの地区の未来ビジョン ●

町田第一地区

地区で活躍する地域団体の主な活動



もしものマップ



地域交流
「原町田ふれあいまつり」



地域住民の対話
「話してみる会・聞いてみる会」

地区別懇談会(2022年度)での
【ワクワクするまち・そのためにできること】

地区ミーティングで生まれた新たなプロジェクト

みんなでつながる一会

大人になっても原町田に住みたい
子どもも大人も顔見知りになってつながる。つながるとそこから助け合いが生まれる

はらまちだ DAISUKI PJ!!

大人と子ども、今と昔のつながりがあふれるまち
昔から住んでいる人と最近住んでいる人とがつながって、交流が生まれると良い

● わたしの地区の未来ビジョン ●

町田第二地区

地区で活躍する地域団体の主な活動



連携促進「まち2フェス」



防災訓練



高齢者の
さりげない見守り

地区別懇談会(2022年度)での
【ワクワクするまち・そのためにできること】

地区ミーティングで生まれた新たなプロジェクト

元気のちえ

食育・未病の講演会を実施し、つながりを強くして健康の大切さに気づいてほしい

知っとく!

ブラリ本まちだ

健康UP!いつまでも歩ける! みんなが参加できる!

つながるkai!
ハブはナイスデイ

世代を問わずにつながり、ご縁を大切にする

チームつながり
~Link Café~

孤立させないために、多世代がつながる場所をつくる

● わたしの地区の未来ビジョン ●

玉川学園・南大谷地区

地区で活躍する地域団体の主な活動



多世代居場所
「加々美さんち」



多世代地域交流拠点
「おむすび食堂」



街かど・なんでも相談室

地区別懇談会(2022年度)での
【ワクワクするまち・そのためにできること】

地区ミーティングで生まれた新たなプロジェクト

坂のまち元気プロジェクト

坂を活かした魅力あるまちをつくらう!
~世代を超えてつながるまち、元気で笑顔が溢れるまち、ウズウズ・ワクワク・ドキドキするまち~

たけのこ

日本文化の体験を通じて、世代間を超えてつながり、みんながお友達になる
地域の皆があいさつを簡単に気楽にできる関係をつくりたい

● わたしの地区の未来ビジョン ●

木曽地区

地区で活躍する地域団体の主な活動



木曽の歴史
「クイズラリー」



防災訓練



多世代交流事業
「トップアスリート講演会」

地区別懇談会(2022年度)での
【ワクワクするまち・そのためにできること】

地区ミーティングで生まれた新たなプロジェクト

ベース木曽

大人も子どももあるがままの姿で集まり、みんなで寄り添いあう

木曽×〇〇

多世代が支え合い、住んでいて楽しく充実した安心して住み続けられるまち

つながり

それぞれの心地よさを味わう
自分らしく、それぞれが心地よくつながれるように

わたしの地区の未来ビジョン

● わたしの地区の未来ビジョン ●

忠生地区

地区で活躍する地域団体の主な活動



忠生子どもフェスティバル



忠生第一地区・小山田地区
マラソン大会



高齢者移動支援
(かしのみ号)運行

地区別懇談会(2022年度)での
【ワクワクするまち・そのためにできること】

地区ミーティングで生まれた新たなプロジェクト

**TTC つながり・
たすけあい・
コミュニティ**

ふれあい、よりそい
によるコミュニティ
の活性化で住み良
い、楽しい地域環境
をつくる

**SC スポーツ&
カルチャーを
ベースに居場所
をつくる**

地域の多世代の方々
が健康でわくわくで
きるような場作りと
地域の特徴の活用

**ただおっこ
あつまれ!
わくわくイベント!**

子どもが真ん中、みんな
でワイワイ、みんなのふるさと
子どもが自分たちで考え
経験しながら育って欲しい

● わたしの地区の未来ビジョン ●

鶴川地区

地区で活躍する地域団体の主な活動



鶴川みんなの交友拠点!
「スマホ教室」



フードバンク
鶴川



鶴川地区交流音楽祭

地区別懇談会(2022年度)での
【ワクワクするまち・そのためにできること】

地区ミーティングで生まれた新たなプロジェクト

みんなの秘密基地

次の世代、その次の世代へと
自然の大切さをつないで、鶴
川の地域の美しい環境を残し
ていく

つるかわ里山

守るつながる生きかえる
里山を大切に、地域の子
どもたちの居場所をつくって
いきたい

● わたしの地区の未来ビジョン ●

小山地区

地区で活躍する地域団体の主な活動



小山・小山ヶ丘
オープンガーデン



つながる
フードドライブ



ライブペインティング

地区別懇談会(2022年度)での
【ワクワクするまち・そのためにできること】

地区ミーティングで生まれた新たなプロジェクト

はつらつ

みんながつながる
秋祭り(マルシェ)
横のつながり、多
世代交流を広げ
たい

**おやま e-場所
つながり
プロジェクト**

誰でもが参加して
つながることがで
きる居場所づくり

**地元をもっと
知ろう!**

現住民が本当に住
みたいまちの実現

● わたしの地区の未来ビジョン ●

相原地区

地区で活躍する地域団体の主な活動



相原人材BANK
移動支援サービス



ノルディックウォークで明
るく元気なまちづくり事業



大学との連携事業
「相原想いの竹カフェ事業」

地区別懇談会(2022年度)での
【ワクワクするまち・そのためにできること】

地区ミーティングで生まれた新たなプロジェクト

あいほら再発見

子どもたちが好きになる相原
に～地域カルタをつくらう～
子どもたちと一緒に相原が
持っている魅力(人、自然等)を
生かした地域カルタをつくる

相原いろいろワールド

子どもたちのふるさと相原
多世代で交流するいろいろな企
画を行い、顔見知りが多い地域に
なることで、子どもたちに相原を
ふるさとだと思ってもらいたい